



そろばんは頭をよくする魔法の道具。

Let's soroban

新年度に突入して2か月が経過しました。みなさん、新しい環境には慣れましたか？

この時期は、部活動などが盛んにおこなわれるので、生徒たちは教室に入ってくるのが遅い時間帯になりがちです。

特に運動部に入っている子はカラダも疲れて大変だと思いますが、頑張ってレッスンしていきましょうね(^)/

*** 中部小学校の竹下京吾君(5年生)が先日、フラッシュ暗算3段に合格しました。3段は4秒間の間に3桁の数字が6回表示されるので、それらを瞬時に計算する必要があります。現在、4段にむけて練習中…。ファイト～！



***ウェブサイト「いこーよ 子供とお出かけ情報」からの抜粋

計算力と右脳が育つ！ 習い事で再び人気の「そろばん」の効果

昔ながらの習い事「そろばん」。計算力アップだけでなく、脳のトレーニングにもよいといわれ、再び注目されているようです。そこで、日本珠算連盟のベテラン講師に、子どもがそろばんを習うと、どのような能力アップが期待できるのか聞いてみました。



■紙での計算と「そろばん」での計算では、何が違う？

「紙で計算する『筆算』は、1の位から計算するのが普通です。筆算は学校で習う算数のベースとなるものですから、きちんと習得する必要があります。これに対して『そろばん』は、数字を読み上げる順番、つまり上の位からそろばん玉を弾きながら計算します」

筆算とそろばんとは計算の方法が違う、ということになります。そろばんは指先を使うことから、「脳全体」がさらに鍛えられるのが大きな特徴です。

■「頭の中のそろばん」を使うことが右脳に良い!?

そろばんといえば「暗算に強くなる」イメージもありますが、その理由はなぜでしょうか？

「『珠算式暗算』は“頭の中のそろばん”を使って計算する方法で、小さい頃からそろばんを習っている子どもは、『3』という数字を聞けば、頭の中にそろばん玉が3つが浮かんでくるんです。このような脳内の直感像記憶は右脳を使っているといわれています。頭の中のそろばんでは数字処理ができるようになれば、2桁の掛け算もあっという間に解けるようになります。対して筆算を頭の中で行う『算数式暗算』は左脳を使って計算しているといわれています。」

そろばんを指ではじく計算方法では脳全体が育ち、頭の中のそろばんを使う珠算式暗算では右脳が鍛えられる、というわけですね。

計算力のほかにも、そろばんを通して‘集中力’を養うことは、とても大切です。検定試験に向けた練習では、そろばん7分間・あんざん3分間のあいだは、他のことは一切考えず問題のことだけに取り組みます。このように真剣勝負を反復することにより、目には見えない精神力が確実に養われていきますよ～。